

今年のノーベル平和賞は、二人のジャーナリストに贈られました。フィリピンのインターネットメディア「ラップラー」のマリア・レッサ代表と、ロシアの新聞「ノーバヤ・ガゼータ」のドミトリー・ムラトフ編集長です。

フィリピンもロシアも、どちらも強権的な政治体制にあることは誰もがご存じだと思います。特にメディアに対する弾圧はとても強い。その中で、報道の自由、言論の自由を主張して、命懸けで闘ってきた人たちです。

フィリピンのレッサ氏は麻薬犯罪容疑者らの殺害やソーシャルメディアを通じた世論操作など、ドゥテルテ大統領の政権運営を批判的に報道。それが名誉毀損に問われ、有罪判決が確定し、現在保釈中です。ドゥテルテ政権の人権軽視を厳しく報じるレッサ氏に、さらにいくつもの罪を負わせようと露骨に圧力をかけています。すべて合わせれば、100 年以上の刑期だと言われています。

ロシアのムラトフ氏も、プーチン政権に批判的な報道をしてきました。これまでに何人もの記者が殺害されたり、脅迫を受けたりしていますが、彼らは政権を批判する報道姿勢を貫いています。ムラトフ氏は、「今回のノーベル平和賞はこれまでに命を落とした同僚たちに与えられたものだ」として、謙虚な姿勢を取っています。

二人とも、権力に屈してはならないという態度で、死をも恐れることなく、民主主義の基礎である報道の自由のために行動している人たちです。自由の重みを感じます。

国際ジャーナリスト NGO の「国境なき記者団 (RSF)」は 4 月「世界報道自由度ランキング」を発表しています。今年の世界 180 ヶ国が対象となっています。このランキングの中で、上位はノルウェー、スウェーデン、フィンランドなど北欧の国が占めています。イギリス 33 位、アメリカ 44 位。さきほどのフィリピン 138 位、ロシアが 150 位です。総じてアジアの国々が低い傾向にあって、中国 177 位、北朝鮮 179 位。

では皆さんは、日本の報道の自由についてどう思いますか。日本は何位くらいだと思いますか。・・・180 か国中 67 位です。この順位をどう見るべきでしょうか。実は G7 の中で最下位、全体の上位 30% に入っていない。

確かに、日本も報道の自由が保障されているとは言えないのかもしれませんが。森友学園への国有地売却をめぐる公文書の改ざんを強いられ、自死した財務局職員の赤木俊夫さんの過労死問題。先日、国が一転して請求を認めました。国が請求額の約 1 億円を支払い、この裁判は打ち切りとなります。国のいわば「全面降伏」によって、真実は闇の中。ご遺族は納得いかない結果だと思います。大物政治家の関与や、何かとても都合の悪いことが隠蔽されているのではないかと疑ってしまいます。…とまあ、こんなことを言うくらい自由はあるということでしょうか。自由という言葉を噛みしめたいと

思います。

豊多摩高校の特色を表す言葉、「自主自律」
学校通信「公孫樹」にも書きましたので、あとでお読みください。ひとつだけ補足したいと思います。

12月1日 朝、杉並区に洪水警報が発令されました。
いったん登校したのに、出欠を取らないと聞いて、下校しようとした学友がいました。学校は本来、安全を守るために規定を定めています。それが、警報の出ている中、下校するとは？ どういうことでしょうか。

みなさんは豊多摩の学友なので、自主自律という言葉を決して胸に刻んでください。

- 自主とは自ら主体的に取り組むということ。勝手な判断をするということではありません。
 - 自律とは自らを律すること。自己管理、自分に厳しくすること。
- 自主自律という言葉の中に、自由という意味はありません。自主自律できている人は、他人にとやかく言われることがない。そこに自由がある。つまり、自主自律ができている人が享受できるのが自由。私はそう考えています。

警報が出された日、一部の学友たちが学校を後にしたあと、教室では、プリント学習や質問会、自習等の学習活動が行われました。短い時間だったかもしれませんが、試験前の貴重な学びになったと思います。これを逃したのは、ご本人にとって大きな損失だったのではないのでしょうか。遅刻も同様です。寒くなったせいか、遅刻者が増えたと感じています。遅刻は自律できていないことの象徴です。遅れた分だけ自分が損をしていることを忘れてはいけません。学ぶのは自分であって、出欠を取ろうが取らないまいが、自ら主体的に取り組む、自らを律する者でなければなりません。そしてかくのごとき行為が、時として規則を変えるきっかけとなることも理解しておかねばなりません。それが責任。「言われなくてよいことを人に言わせない」ことこそが、自ら立つ「自立」なのです。…少々、小うるさいことを申しました。

さて、今年一年は、皆さん、それぞれにとってどのような年だったでしょうか。年が明ければ、3年生はいよいよ本番。2年生は2月の修学旅行も目前です。すべてがうまくいきますように。新しい年が皆さんにとって、素晴らしい年となりますように、お祈り申し上げます。よいお年をお迎えください。

学友の皆さん、それぞれが自分の空、自分の頂上に届くことができますように。

Touch the Sky! 校長 析倉でした。